令和４年度　江戸川区立瑞江小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	東京都及び江戸川区の学校教育の教育目標を踏まえ、人権尊重と社会貢献の精神を基盤として生きる力を支える知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性及び社会性を育むとともに、国際社会や地域社会の各界で活躍し、貢献できる人格の育成を目指す。	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	●よく考える瑞江の子　●元気で明るい瑞江の子 ●進んで物事をする瑞江の子　●思いやりのある瑞江の子
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞感染症対策のため活動に様々な制限がかかる中ではあったが、教職員で創意工夫し、学習目標達成に向けた活動ができた。一人一台端末の活用の仕方について、教員同士の情報交換や校内研修を通して充実を図った。 ＜課題＞図書室の整備・活用が不十分であった。読書科の目標達成に向け、図書館から派遣される司書との連携が必須である。学校公開等の機会が少なく、保護者・地域への発信が不十分であった。公開に限らず情報発信できるよう手立ての構築が必要である。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学力向上委員会を中心に「確かな学力向上プラン」を策定・実施・修正し計画的な運用を行う。 ・一人一台端末やeライブラリアドバンスの活用について、情報推進リーダーを中心に充実を図る。	・4月初旬に全教員で学力向上プランについて確認するとともに、年間計画について学力向上委員会から提案を行う。3学期に年間の成果と課題を確認し、次年度に向けてプランの見直しを行う。 ・月1回以上、一人一台端末やeライブラリアドバンスに関する活用方法の紹介や検討を、情報推進リーダーが中心となり行う。	A	A	・4月初旬の学力向上プラン確認および年間計画についての提案を実施した。 ・情報推進リーダーを中心に活用方法に関する実践的な研修を行い、各学級での活用を図った。他校の実践や文部科学省、東京都、各種団体の提供する情報から本校の実態に合う活用方法を実践できた。	A	目標に沿った取り組みができていると思います。	・次年度も今年度同様に成果を出すことができる様、学力向上プランについて教職員内で共有し、指導に当たる。 ・引き続き活用方法について情報共有を密にしつつ、積極的に学習場面で活用するようにする。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・全校運動遊びを活用し、運動に親しむ姿勢を育む。全校運動遊びにおいて日常的にも児童が遊びの中で取り入れることのできる運動遊びを紹介し、体験させることで運動の日常化を図る。 ・運動の日常化を図るため、体育科の授業と休み時間の遊びをつなげる。	・年25回、全校運動遊びを実施する。 ・活動内容について教師自身が体験的に学ぶ校内研修を月1回以上実施する。 ・校内体育部から鉄棒やなわとび、マラソンなどの学習カードを提供し、全児童が1日1度は校庭に出て運動に親しむことができるよう働きかける。	A	B	・運動遊びを予定通りに実施した。 ・教員主体での活動内容の共有を月2～3回の実技研修を通して実施できた。 ・全児童が校庭にでることはできなかった。 ・クラス遊び等を活用し、教員も一緒に遊ぶなど工夫をすることで9割以上の児童が1日1度は外遊びを楽しむようになった。	A	目標に沿った取り組みができていると思います。	・次年度も計画通りの実施を心掛ける。 ・目標を学校内で共有し、全てのクラスで同様の指導ができるよう心掛ける。
	読書科の更なる充実	・読書を通した探究的な学習の実施・充実	・東部図書館より派遣される図書館司書および校内図書ボランティアとの連携を深め、本校の実態に応じた読書科の充実を図る。	・4月中に東部図書館との打ち合わせを行い、連携の基本方針と年間の活動内容について明確にする。 ・読書科担当教諭と司書で毎回活動内容の確認を行い、各学年の学習状況に応じた支援について再検討する。 ・図書ボランティアからの情報を東部図書館とも共有し、探究的な活動に活用しやすい図書室の整備を目指す。 ・各学級の読書科開始時に司書による指導を行い、探究的な活動における図書資料の活用を促す。	B	B	・図書館司書と担当教諭による打ち合わせを定期的に行い、学習で活用しやすい図書室運営を心掛けた。 ・図書室改修に際し、司書の助言を活用し、学習に活用しやすい図書室への整備が完了した。 ・図書ボランティアと東部図書館、学校の連携が十分ではなかった。役割分担を名確認することで、各所が十分に力を発揮できるよう運営していきたい。	A	読書に関する力はとても大事であると思います。引き続きよろしくお願いします。	・学校、司書、図書ボランティアの連携が円滑になるよう、図書主任を中心に情報共有を行う。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・ライフサポート部において児童の困り感について共有・検討し、学校全体で指導の充実を図る。 ・エンカレッジルームについて共通理解を図る。 ・仲よし学級児童及び5名の副籍児童、通常の学級児童について、それぞれの実態に応じた交流および共同学習の目標を定めて活動する。	・4月に校内支援委員会を実施して共通理解を図る。担任等からの要望により個別相談を実施し、支援委員会で検討することで指導の充実を図る。 ・年1回以上、巡回指導教諭によるエンカレッジの考え方に関する講習会や児童への理解推進授業を行う。 ・4月初旬に仲よし学級担任より各学年担任に交流計画を示す。特別支援学級児童・通常の学級児童それぞれの目標を明確にして交流および共同学習を行い、全ての児童が充実した学習活動を行えるよう努める。	A	A	・教育課題実践推進校において深めた研究内容を生かし、引き続き学校全体で交流および共同学習の充実が行われた。 ・巡回指導教員や特別支援学級教員による理解推進教育および教員への伝達講習を実施した。教員向け資料を活用し、個人面談等で保護者への啓発も図った。	A	目標に沿った取り組みができていると思います。	・引き続き、児童の実態に応じた交流および共同学習を積極的に行う。 ・特別支援教育に関する研修の機会を年間計画の中に位置づけ、例年の研修機会として設定していく。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・Q-Uテストの実施と活用	・6月中にQ-Uテストを実施し、8月までにその結果について分析を行う。9月末までに結果と分析について資料を作成し、保護者との共有を行う。 ・8月中に行った分析結果をもとに、各学級での指導について見直しを図る。	A	A	・テストの結果を分析し、各学年及び生活指導部においで傾向と対策について検討した。分析内容について学年ごとにまとめ、保護者への周知を行った。	A	目標に沿った取り組みができていると思います。	・引き続き、生活指導部を中心に組織的な運用を行う。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校評議員による学校関係者評価の充実 ・保護者アンケートを活用した学校評価の充実	・年間3回の学校評議員会を活用し、教育活動に関する意見を定期的に得る。 ・MicrosoftFormsを活用してアンケートの簡略化を図り、より多くの意見を集約できるようにする。また、集約・分析に時間をかけることでより正確な評価ができるようにする。	A	A	・学校評議員との情報共有・意見交換を行った。 ・保護者向けのアンケートについて、電子媒体を基本とした実施により効率的な集約ができた。まとめたものを印刷・配布することでアンケート結果の共有ができた。	A	目標に沿った取り組みができていると思います。	・オンラインでのアンケート収集により集約がしやすくなった。回答内容の分析と適切な対応を心掛け、学校関係者評価の有効な活用を行う。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・組織改革による働き方改革	・5年先を見通して活動しやすい組織づくりを行う。昨年度から編成した組織の状況を確認し、活動内容を修正する。	A	B	・一昨年度より継続して組織改革を実施した。昨年度および今年度の反省をもとに、現行組織の課題を明確にし、次年度に向けて修正案を検討した。事務分掌の仕事量に偏りがあるとの反省が出たので、次年度以降の修正案を検討する必要がある。	A	先生方にこれからも「やりがい」の時間をよろしくお願いします。	・校務分担の適正化に向け、年度当初の割り振り時に確認を行う。
			・意識改革による働き方改革	・教員自身が時間に対する意識を高め、優先順位や作業内容を工夫することで限られた時間の中で必要な仕事を行うように努める。年間の月別時間外勤務時間平均が45時間を超えないよう、月ごとに確認し、勤務内容の調整を図る。	A	A	・自己申告書に各教員が提示した目標に合わせ実践をした。9割の教員がおおむね目標を達成できた。 ・月別時間外勤務平均が令和3年度は約39時間であったのに対し、令和4年度(12月まで)は約29時間と、大幅に減らすことができた。	A	目標に沿った取り組みができていると思います。	・業務の効率化について、全ての教職員が意識できている。年度が替わり、教員の移動があっても変わらず意識できるよう投げかけていく。